

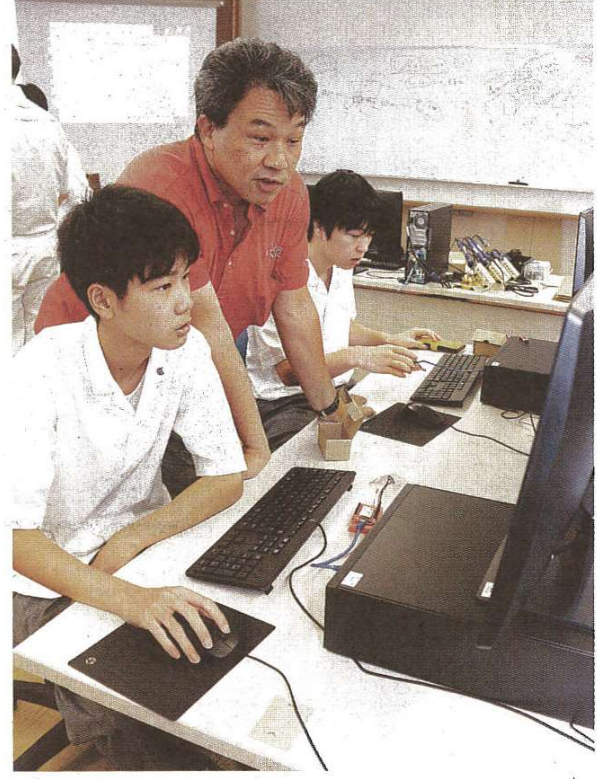
教育のページ

データの活用学ば

田辺工業高校で講習会

田辺工業高校(田辺市あけぼの)は9日、希望する生徒を対象にデータの活用を学ぶ講習会を開いた。生徒は気温などを測るセンサーを使い、パソコンでデータを収集する方法を学んだ。

同校は、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成する文部科学省の事業「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)」の地域社会に貢献することを掲げる。データを活用し、工業技術の力で認定を目指している。データ



和歌山大学の秋山演亮教授(中央)に教わり、パソコンでデータ収集の作業を進める生徒
—田辺市あけぼので

を開催している。7月31日も、和歌山大学の秋山演亮教授に講師を依頼して実施した。

この日は電気電子科と情報システム科から1、2年生4人が参加。秋山教授の指導で室内にセンサーを置いて気温や気圧を測り、パソコンと連動させてデータを集めた。生徒は秋山教授にパソコンの操作方法などを聞き、作業を進めた。

電気電子科2年生の小山拓海君(16)は「先生に声を掛けられ、面白そうだなと思って参加した。センサーでデータがちゃんと取れたときがうれしかった」と話した。